

恋はぐだぐだ

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

松岡 麻子
松岡 遥
荒木 逢
杉浦 松子
ミラ

その年最も寒い日の夜。若い会社員松岡の自宅の一室。部屋の中央にイーゼルに黒板タイプのメニューボードがあり、「本日のMENU」という文字の下に公演名等が喫茶店のメニュー風に書かれている。部屋の隅にはノートPCの置かれた折れ足テーブル。部屋主の松岡がノートPCに重なるようにしてうたた寝している。

「小道具」「衣裳」などと書かれた段ボールや小道具のテーブルと椅子二脚が倉庫のごとく積み上げられている。

奥から吉野麻子が現れる。ほろ酔い状態で、タオルで髪を拭きながら松岡の横に座る。

麻子 ……松岡？
松岡 ……
麻子 松岡？

松岡、むにやむにや言つ。

麻子 ……松岡？

松岡、じんわりと目を覚ます。

松岡 ?
麻子 ……お疲れ。
松岡 ?
麻子 涎よだれ？
松岡 え？

松岡、涎を吸る。

松岡 ……吉野？
麻子 久しぶり。だいぶお疲れみたいやな。
松岡 ……どしたん？
麻子 今日ウチの劇団な、千種楽せんしゅらくでな、今劇団のみんな打ち上げに行ってるねん。

ちよつと覚醒してきた松岡。

松岡 ……え、何で吉野がおるねん。
麻子 寝惚ぼけてるわ。
松岡 何で勝手に部屋に入って来てんの？
麻子 インターホン何回も押してんけど、松岡、眠ってて出えへんかったから。
松岡 ……鍵掛かってたやろ？

麻子 ん？

松岡 (部屋中に置かれた荷物を指して) これ何？
麻子 え？ ……ああ、衣裳とか小道具とか。…さっきまでウチの劇団な公演やってん。今日、千種楽でな、今、劇団のみんな打ち上げに行ってるわ。

松岡 ……。何で俺ん家に置くん？
麻子 ……。何で俺ん家に置くん？
松岡 ……。何で俺ん家に置くん？
松岡 ……。何で俺ん家に置くん？

松岡 ……。何で俺ん家に置くん？
麻子 ……。何で俺ん家に置くん？
松岡 ……。何で俺ん家に置くん？
松岡 ……。何で俺ん家に置くん？

麻子、松岡に紙袋を渡す。

松岡 ……何これ？
麻子 公演の差し入れで貰ってんけど、よかったら…。
松岡 いや…。

麻子 …。

松岡、袋を覗く。差し入れの包装紙に「祝公園」の文字。

松岡 公園？

松岡、包装紙破る。中から巨大なタッパー。脇から覗き込む麻子。

麻子 わあ。ひじきの炊いたのや。

松岡 …。

麻子 あ、どうぞ。

松岡 要らんから。あのさ、吉野…。

麻子、缶ビールのプルタブを引く。

松岡 プシュチャうわ！ …それ、うちの冷蔵庫に入ってた奴？

麻子 うん。

松岡 何で飲んでんねん。

麻子 だって、みんな今頃打ち上げて飲んでるのにさあ、ウチだけ搬出で飲めへんかったから。ツクシユンツ！

松岡、顔にかかった唾を拭う。

麻子 もうパンツまでぐっしょぐしょになってもうてさ。

松岡 …。

麻子 何か着るもんじゃない？

松岡 ない。

麻子 …このままおったら風邪引くなあ。

松岡 それ（衣裳の箱）何？ こんだけようさん

あるんやから、どれでも着たらええやん。

麻子 ホンマやな。松岡賢いな。

松岡 …。

麻子 何かリクエストがあったら着るけど？

松岡 どれでもええから！ 何なん？ 人ん家

黙って上がり込んで、こんなに荷物入れて。ッ！

松岡、ダンボール箱の中から知らない国の文字で書かれた飲食店のメニューを出そうとして指にトゲが刺さる。

松岡 何やねんこれ？

麻子 メニュー。

松岡 わかってる。（ボソ）痛あ、トゲ刺さった。

麻子 …何処の文字や…。

松岡 じゃあ、ちよっとスペース開けるわ。ここ、

うまいこと積み直したら少し広く――

松岡 積み直すんやなくて持って帰って。邪魔やから。

麻子 でも雨降ってるから。

松岡 ええから、これ全部外に出して。

麻子 ええ？

松岡 締め切り…。

慌ててノートPCに向かう松岡。

麻子、イーゼルから手をつける。外に出して戻って来ると松岡執筆中。

松岡 ああもう間に合わへん。

麻子 それ、何？ 脚本、書いてるトコやったん？

松岡 …。

麻子 ウチが起こさんかったら、めっちゃヤバかった？

松岡 …。

麻子 ウチのおかげやな。

松岡 今何時？

麻子、時計を見る。

麻子 時計、止まってるやん。

松岡 それ、もうだいたい前に壊れて。

麻子 電池切れてるだけちゃうん？

松岡 もうええからほっといて。

麻子 あ、ちよっと待っててや。

麻子、小道具箱から電池を出してきて時計に入れる。

麻子 凄いな。一軒家に住むなんて。

松岡 親戚が海外に行ってる間貸してくれてるだ

げや。…腹減った。

…誰かと住んでるん？

いや、一人…。

ふうん、そっかあ。…ほら動いた！

麻子、松岡に時計を見せるが松岡PCに没頭して振り向かない。麻子、携帯の液晶を見ながら時計の針を正しい時刻に合わせ、元あった位置に置く。(文字盤が客席に見えるように)

麻子 …全然寝てないん？

松岡 …最近寝よう思ったたら邪魔が入るねん。裏

に住んでる奴が毎晩夜中にゲームやってて、でっかい音で…。

麻子 そっか。…間に合いそうなん？

松岡 期限、今日の日付が変わるまで。

…雨の中飛び出してくヒロインを、なかなか追いかける決心がつかへん主人公がもどかしいな。

松岡 何で読んでんの？ いつの間に読んだん？

麻子 どんなん書いてんのかなあって。起こしても起きへんかったから。

松岡 やば。どうしよ。

麻子 待ってもらったらええやん。

松岡 そんな…。

麻子 言うだけ言うてみたら？

松岡 …。

松岡、電話を掛ける。

松岡 …ま、松岡です。お世話になってます。

松岡、電話の相手と軽く世間話。麻子、携帯を取り出し、メールを打ち始める。

松岡 …その件なんですけどね、思ったより時間

かかりそうなんですよ。…すみません。それでできたらちよっと期限延ばしてほしいんですけど。…無理言うてるんはわかって

るんですけど。二日、いや一日でも助かるんです。…はい。…いや、そこを何とか。…すみません。じゃあ先方へそない話だけ

振ってもらえますか？ はい。お手間かけます。…はい、できるだけポツシブルでやりますんで。はい失礼します。

松岡、電話を切って、溜息。

麻子 かない？

松岡 禁煙。

麻子、出しかけていた煙草をしまっ。

松岡 一応先方に頼んでみるって言うてくれてるけど、向こうがどないかわからん。

松岡、トイレに行きたそうにモゾモゾしている。

麻子 先トイレ行っといでや。

松岡 …。

麻子 大丈夫大丈夫。

松岡 …何がや。

麻子 …ん？

松岡 吉野の『大丈夫』には根拠がないやん。

麻子 それ、よう言うてたな。珈琲入れたるか？(くしゃみ)

松岡 …。

麻子 シャワー貸して？

松岡 (ため息) 台所の奥。台所にストープあるから、服乾かしてくれたらええし。

麻子 ありがと。…最後のシーンまだ出来てないみたいやけど、ハッピーエンドが見たいな。服乾いたら荷物何とかして。

松岡、トイレに行く。

麻子 …。

麻子、押し殺していた緊張を吐き出すように息を吐いた後、ポケットからかんざしを取り出して、自分に頑張れとちっちょく励ます。外は強風。

麻子 寒う。…(テーブルを触りながら) まだ全然使えるやん。劇団の倉庫いっぱいやしな

あ。このままここに置かしてくれたらええの。

缶ビールを飲む。

麻子 ぶは。

衣裳と書かれた箱を覗く。

麻子 「普通」のがないな。

黒い衣裳をひとつ手に取る。

麻子 …うーん。しゃーないか。

麻子、衣裳を抱え奥へ。

荒木と遙、登場。麻子が置いたテーブルと椅子が、偶然喫茶店の一組のテーブル席のような配置になっている。荒木、店内の雰囲気躊躇しながら席につく。部屋の入口に躊躇して立つ遙。

荒木 座りいや。

遙 ここ、ホンマに喫茶店なん？

荒木 看板出てたやん。

遙、着席。

遙 こんな遅うまでやってんの？ 店員は？

荒木 そのうち来るやろ。

重い空気。

荒木 …なあ、どういうことやねん。

遙 …。

遙、お爺ちゃんの葬式や言うてたよなあ。

遙 …。

荒木 言うてたよなあ！

遙 怒鳴らんとってや！

荒木 答えろや！ 何でや！ 何で杉浦と二人で、

デズニイランドやねん！ しかも泊まりでって。

松岡、戻って来るやいなや、二人の存在に驚いてバランスを崩し、麻子が置いていった箱の群れに身を突っ込んで派手にずっこける。

遙 ちやうねん！

荒木 何がちやうねん！ こっちはおまえら二人

が東京行きの新幹線に乗ってるのを目撃し

とんねん！

遙 隠れて見てたん？

荒木 ちやうわ！ 梅田行きの阪急乗ってたらた

またま窓からやな、横走ってる新幹線に乗ってんのが見えたんや！ そんな時その服やったやろ。

自分の服装を確認する遙。

荒木 何がお爺ちゃんの葬式や。ほんでお爺ちゃん三人目やないか！ 日記にちゃんと付けたあんねん！ ホンマ信じられへんわ。俺は何やねん！

遙 …わからへん。

遙 …わからへん。

荒木 わからへんって何や！

遙 わかれへんからわかれへんの！ 何でそんな怒るんよ！

荒木 そんなこと聞くか？

松岡 あの…。

荒木 えっと、カプチーノ二つ。

松岡 え？

荒木 あのな、自分の彼女が他の男と二人で旅行行ったって聞いて、怒らん男が何処におんねん！

荒木、松岡と目が合う。

荒木 以上で。(遙に) あのな――

松岡 ちよっといいですか。

荒木 今大事な話してるから。

松岡 えと、そうなんですけど。あの、人ん家で何してるんですか――

遙 何かしんどい。

荒木 何やねんそれ。…もー。

遙 杉浦君とおるの方が、楽しいわ。

荒木 何でそんなこと言うねん。
 松岡 ちよ、ちよっといいですか！
 荒木 さつきから何やねん！
 松岡 それは、こっちの台詞ですよ。
 荒木 は？
 松岡 それはこっちの台詞ですよ！ さつきから何なんですか！ どういうことですか。トイレから帰って来たらいきなり見ず知らずの人間が土足で人ん家上がり込んで、別れ話してるって！
 荒木 別れ話ちゃうわ！
 遙 え？
 荒木 「え？」って何やねん！ 「え？」って！
 遙 別れ話のつもりやったんか！
 荒木 ちやうってそういう意味と。
 遙 思ってたから「え？」って出たんやろ！
 遙 ちやうって思い出し「え？」やんか。
 荒木 何やねん思い出し「え？」って。
 松岡 無視すなあ！
 二人 ？
 松岡 別れ話でもちやうかってもどっちやでもええんですよ！ 君ら誰なんですか！ 何で俺ん家なんですか！
 荒木 知らんやん。
 松岡 知らんやんて！ そんな言い草ないでしようが！ ちゃんと説明して下さいよ！
 荒木 せやから遙がお爺ちゃんの葬式やって言うてたくせに、お爺ちゃん三人目で、せやけど家庭事情が複雑っぽいこと言うてたし、信じようって思ってたのに――
 松岡 喧嘩の理由聞いてんちゃいますよ！ 何でここにおるんかを聞いてるんですよ！
 荒木 ほなそない言えや！
 松岡 ええ？ そこはわかって下さいよ！
 遙 真剣な話したいから、取り敢えず落ち着けるとここに入るうかってことになって、ほんで…ここに。
 犬の遠吠え…
 松岡 …それは何処の国の風習ですか。意味がわからん。さつきから聞いてたら何なんですかこれ。え？ ちよっと涌いてはるんスカ。テーブルまで持ち込んで。
 荒木 は？
 遙 (ヒソ) せやからウチ、ここはやめといた方がええって思ってたのに。
 荒木 今更そんなん言うなや！ 入る前に言えや。何やねん。いっつも人に決めさせといて文句だけ言うて。何処でもええ言うてたやないか！
 松岡 何でそこに民家を含むんですか！
 荒木 なんもん民家やなんて誰も思わへんやないか！
 松岡 ほんなら何でテーブルまで用意してるんですか！ 普段から担いで歩いてるんですか。
 荒木 何がやねん！
 松岡 何がやねんなくて！
 荒木 紛らわしいねん！ ほんなら「民家」って書いとけや！
 松岡 民家って書いてる民家は何処にあるんですか！
 遙 タミイ先輩ン家、表札に民家って書いてた。
 松岡 それはタミイエって書いてんでしょ！ 何の話ですか。そんないいんですよ！
 荒木 そうや、何で杉浦やねん！ いっからや。いつからってそんな。
 遙 いや、そんな話やなくて。
 松岡 それまでもどうせ何回か会ってたんやろ。
 荒木 俺が阪急の中から見かけんかったら…。大体、俺と付き合ってからだけでお爺ちゃん三人や。今まで通算何人死んでるねん。
 遙 …ゼロ。
 荒木 全部嘘か！
 遙 あとの二回はバイト休みたくて。
 荒木 そんなんでお爺ちゃん殺すな。…ほんで俺まで騙すことないやろ。丁寧に喪中葉書まで送ってきて。
 遙 何処でバレるかわからんし。バレたらやばいから。

荒木 どうなバイトやねん！ ま、それはええわ。

松岡 ……杉浦は俺のツレや。気が遣って会わへんのが常識ちゃうんか。

荒木 その常識の話なんですけど…。

松岡 良心が咎めたりせえへんの？

荒木 お爺ちゃんは別にええよって。

松岡 俺にや！ てか、何ちゆうことお爺ちゃん

荒木 に頼んでんねん。ほんで、お爺ちゃんもど

松岡 ンだけ孫に甘いねん。悲しすぎるわ！ 俺

荒木 がお爺ちゃんやったら――

松岡 つき合っていないわ！

荒木 ちよ、聞けや！

松岡 (遙の痛さに) うわあ (ボソ) ……

荒木 ……なあ、何で行くねん。

松岡 杉浦君に強引に誘われて。

荒木 断ったらええやん。遙にも隙があったんちゃうん。

松岡 ウチにばかり言うけど、幸助かてウチの

荒木 こと全然構ってくれへんかったやん。本番

松岡 かって観に来てくれへんかったし。

荒木 せやから年度末の絡みで忙しなる言うてた

松岡 やん。

荒木 メールかてロクに返してくれへんし。

松岡 あの、靴――

松岡 ミツキューイーに会いたって言うても、ミツ

松岡 キューイーは金のない奴とは会わへんねん

松岡 っ

荒木 ミツキューイーが言うわけないやろ！

松岡 幸助が言うたんやん！

荒木 言うてないわ！

松岡 言うたやん！

荒木 今は金欠やって言うただけやろ！

松岡 同じやんか！

荒木 全然ちゃうやろ！

息切れする二人。どこから聞こえて来るTVゲームの曲。

松岡 こう(手を両側からすれ違わせて)やんか！

松岡 (突然反撃されて驚き)何がや！

松岡 さっきの思い出し「え？」で言おうとした

松岡 ことやんか！

松岡 何の話や！

松岡 さっき梅田行きって言うてた。

松岡 言うたよ。

松岡 新幹線と逆に走ってるやん！ こう(手を

松岡 両側からすれ違わせて)やんか！

松岡 は？

松岡 阪急が一〇〇キロ、新幹線が二五〇キロと

松岡 しても三五〇キロでこうやんか(再び手を

松岡 クロス)！ JRの新快速と各停が併走し

松岡 て走ってたとかなら見えたかも知れんぞ？

松岡 阪急と新幹線の併走でもたぶん見えへん

松岡 のにすれ違う瞬間に見えるわけないやん！

荒木 ……どんな動体視力なんよ！

松岡 信号待ちか何かゆっくり走ったんや！

松岡 遙、杉浦に冷凍みかんあーんってしてたや

松岡 ろ。

遙、気まずそうな顔。

松岡 ……あーんってしてたんですか。

松岡 ……してた。

松岡 何であーんってしたんですか。

松岡 だって…。

松岡 新幹線と阪急が横に並ぶトコまで新大阪か

松岡 らせいぜい十分から十五分。乗ってすぐや。

松岡 乗ってすぐあーんか。あーんする気まんま

松岡 んか。

俯く遙。

松岡 ずっと行きたい言うてたのに。

松岡 ほんで杉浦とか。あっそ。

松岡 杉浦君、時間作ってくれるもん。

松岡 あっそう！ 杉浦と行くってわかってたら、

松岡 チケットも休みも取るんやなかったわ！

松岡 え？

松岡 あらら。

松岡 チケットって？

松岡 もうどうでもええやん。杉浦と行ったんやっ

たら。

杉浦、息を切らしてやってくる。外はかなり寒いらしい。

松岡 ?

杉浦君…。

杉浦 やっぱここか。

荒木 杉浦、おまえ、どういふことやねん！

杉浦 ちよちよちよ、待ってって荒木！

松岡 うわああああ！

突然叫びだす松岡。嘩然とする荒木と杉浦。

三人 ?

松岡 わけわからんわー！ 自分こそちよつと待

てやで杉浦君！ 何でここに来るねん！

何や、「やっぱここか」って！ 「やっぱ」っ

て何やねん「やっぱ」って！ ああもう！

脳みそ飛んで行きそうや！

誰？ この気色い人。

荒木 俺が先に質問しとんねん！

遙 大丈夫？ 脳みそ。

松岡 比喻や！

荒木 おまえ先週の週末、泊まりで博多行く言っ

てたよなあ。

遙 比喻って何？

松岡 流して下さい。

杉浦 ちよつと席外してくれへんかな。

松岡 しばらくで。ホンマしばらくで。ホンマしばらくで。

松岡 ホンマ。ほんで、「やっぱ」って何？

杉浦 比喻や！

荒木 博多にライブ観に行く言ってたよなあ。

松岡 比喻って何？

杉浦 流して下さい。

荒木 ライブ観に行っってたんとちやうんか！

杉浦 せやから…。

荒木 せやから何や！

杉浦 …遙ちゃんデズニシーに行っった。

荒木 …シーか！ ランドちやうんか！

杉浦 シーの方。

荒木 遙、おまえランドや言ってたやないか！

遙 シーの方。

荒木 ふざけんなよ。おま、ふざけんなよ！

松岡 何でそんな引つかかるんですか。

荒木 おま、何考えてんねん！

杉浦 背中、蚊に噛まれた。

荒木 しばらくぞー！ 何でシーやねん。

杉浦 俺と遙ちゃんはそういうんとちやうんか！

杉浦 て。(遙に) 荒木に言ったんか？

遙 新幹線に乗ってるの、阪急から見えてんて。

杉浦 ええ？

松岡 あの、全員、靴を…。

荒木 何でシーやねん。

松岡 何でそこに拘るんですか。シーに何があるんすか。

荒木 人魚姫とか、…あと、人魚みたいに下半身

が魚のミッキューとかがおるんやろ。

杉浦 ミッキューはあんまおらんか…。

荒木 言うなあ！

杉浦 ポ□リがいた。

荒木 嘘つけ！ おるか！

杉浦 それより荒木、俺が来る前にチケット取る

んやなかったって言っってたやんか。

荒木 何で来る前の話がわかるねん！

遙 幸助、それってどういうこと？

荒木 …もうええやろ。

遙 ええことないよ、だって金ない言っってたや

ん。

…。

遙 もしかして、あれ使ったん？ ガンダム貯

金。

杉浦 え？ おまえ、ガンダム貯金に手出したん？

荒木、杉浦を睨む。

杉浦 睨むなよ。

松岡 何すか、ガンダム貯金って？

遙 幸助、中学のときから筆筒貯金してて。本

物のガンダム買ったために。

杉浦 一言、言ってくれよ。

荒木 驚かせよう思ってたんやないか。

松岡 ニュータイプ？

杉浦 なあ、チケットっていつの分なん？ もう

日過ぎてんの？

荒木 今日の夜行バス。

杉浦 今日なん？

荒木 せやから明日明後日で向こう回るつもりで。

杉浦 ホンマ代わりに誰か連れてったろかな。

松岡 荒木。

杉浦 ガンダム諦めたわりに夜行バスなんや…。

荒木 なあ、話、聞いてくれよ。

杉浦 ああ、聞いたるから、遠回しにごちゃごちゃ

荒木 言わんと、はつきり言うたらええやろ。遙

を寝取ったってよ！

荒木、携帯を取り出す。

荒木 取り敢えず座れや。

杉浦 座れったって、椅子が。

荒木、突然満面の笑みで電話。

荒木 もしもしい。荒木ですう。お世話なつてま
すー。こないだはどうもお。ええとこ連れ
てってもらいまして。あの後は？ …ナハ
ハハハハハ。そうですかあ。

杉浦、遙とひとつの椅子を共有して座る。

荒木 …ああ、その話ですか。こつちも気になつ

てたんですけど、どないです？ …遅らせ

たい？ ああ…。…まあ松岡先生にはこつ

ちも無理言うてお願いしてる身なんで。

松岡、「俺のこと？」という身振り。荒木、手持ちぶ
さたっぽく、床にある枕を取り、電話をしながらじ
くっている。

荒木 …いや、明日明後日は休み貰うつもりやつ

て、休み明けでもええって言うおうか思つて

たんですけどね。状況変わって今から事務

所戻れそうなんで。

松岡 え？

荒木 それやったら今晚見たいなって思つて。い

や、まだわからないんですけどね。…ナハ

ハハハハハ、それ意味同じですわ。できる

だけでポッシブルって。

松岡 !

荒木 …ええ。決まったら連絡しますわ。…はい、

どうも。(電話を切る) アホかあ！

荒木、杉浦に枕を投げつける。杉浦、椅子から落ち、
更に床で足をぶつけて転げ回る。

杉浦 だって椅子が。ちよ、頼むから話聞いてく

れて。

松岡 あの…。

遙 もうええよ。杉浦君。フォローするだけ無

駄やわ。全然信用してもらえへんねんから。

杉浦 そんなこと言わんと、仲直りして二人で行つ

といてよ。な、荒木も。

荒木 何で散々かき回した張本人がその立場やね

ん。

杉浦 細かいこと気にすなよ。

荒木 気にするやろ！

杉浦 荒木かて、遙ちゃんで行きたかったからチ

ケット取ったんやろ？ 行けば何とかな

るって。(松岡に)なあ。

松岡 絶対行くべきです。

杉浦 な。俺かて荒木と遙ちゃんの仲を裂くつも

りなんかハナからなかってんから。せやか

ら手出してないし。

荒木 当たり前や。

杉浦 今日なんやろ。せやのに喧嘩してる場合と

ちやうやんか。二人とも今すぐ仲直りして。

シーが待ってるから。

松岡 何ならもう二三泊延長してくれても…。

荒木 いやもう事務所戻らなあかんようになったか

ら。

杉浦 週明けでもええんやろ。

荒木 あかんねんて、この先生の原稿は目え通す

のに時間かかるみたいやから。よう見とか

な下ネタとかあっちゃこっちゃ埋め込んでるって。

松岡 そんなことないですよ。

荒木 え？

松岡 いや。

荒木 後の日程もずれ込むし。

杉浦 どっちが大事やねん。仕事とミッキューイと。

逢 いや、仕事とウチ…。

松岡 荒木さん、デゼニイシーですよ。

荒木 …行きたいならあげるけど。

松岡 僕はこっちにおらな意味ないんですよ。

荒木 え？

松岡 いやその、逢ちゃんと行くためにチケット

買ったんでしょ？

逢 勝手に買って来んとってよ。

松岡 (ボン)勝手に部屋に入って来たくせに。(荒木と逢に) そのね、こういうのほっとけへんタチなんですよ。迷子の恋って言うんですか。

杉浦 向こう行ったら日頃抱えてる嫌なこと全部吹っ飛ばから。行った人間が言うてるんやから。

松岡 まだ回ってないトコ回ったらええんですよ。

杉浦 そうそう、俺らメインのええとこしか回ってないから。

松岡 杉浦君、ちよつと息を引き取ってて。

荒木 そんなに良かったんなら、もっかい二人で行って来たらええやろ！

荒木、チケットをテーブルに叩きつける。

杉浦 荒木。

荒木 …俺もう仕事行くから。

荒木を引き留める松岡。

松岡 ちよ荒木さん待って。

荒木 もうええから。

チケットを荒木に持たせる松岡、拒む荒木。松岡、止める勢いが激しすぎて、チケットを荒木の口に入れようとする。

荒木 ちよつとお！ 何やねん！

松岡 いや、その、まるで昔の青い頃の自分を見

てるみたいで。こんな終わり方、絶対、後

悔しますって。せやから、二人で、デズニイ

シーに行っときましょう！

逢 もうええって。

松岡 何がもうええんですか！

逢 ええええ？

松岡 下半身魚のミッキューイに会いたくないん

スか！

荒木 いやあの…。

松岡 行かんでもわかるって言うんですか。それはウオ〇ト(親)に失礼なんとちやいますか！

荒木 どっちにしても今日はもう無理やから…。

松岡 今日しか見れへん星空もあるでしょうが！

荒木 ええええ？

杉浦 くないしたん。発作？

松岡 おまえが全部悪いんやろが！…荒木さん、

結論、そない急がんでもええやないですか。

今は許せへんかったても、そのうち消化でき

ますって。それでも行く言うんやったら、

せめてその前に注文しはった珈琲、飲んでっ

て下さい。

荒木 さつき自分、民家って。

松岡 …民家フェです。

荒木 民家フェ？

松岡 新しいスタイルのカフェなんです。知らん

かなあ？ …監獄風居酒屋ってあるでしょ。

あれの民家版の喫茶店版みたいな。

荒木 ほな、今までのやりとりは何やったん？

松岡 ショ、ショウタイムです。丁度ショウタイ

ムの時間やったんですよ。

荒木 そうなん？ そのわりには客他におらんけ

ど。

松岡 ホントさつきまでお客さんでこった返し…。

松岡、振り向くと、麻子がウエイトレスの衣裳に着替

えてお盆にマグカップを乗せて戻って来る。

松岡 少々お待ち下さい。

松岡、慌てて麻子のそばへ。

松岡 何やっててん。

麻子 え？ ヒック。エへへへへ。

松岡 何でまた勝手に飲んでんの？

麻子 いつもシャワー浴びたら飲む習慣があつて。

松岡 人ん家やるの？

麻子 人ん？

松岡 もう。どんだけ飲んでん。ほんで何やねん

その格好。

麻子 可愛いやる。：松岡、あの人ら誰？

松岡 客。

麻子 客？

松岡 ここを喫茶店と思つてる。

荒木、スケジュール帳に何やら頑張つて書き込んでお
り、その横で杉浦が荒木にいろいろ弁解している。

麻子 …酔つてはんの？

松岡 おまえや。

麻子 喫茶店て。

松岡 そういうことになつてもうてん。その珈琲

出してきた。

麻子 違いますって言うたらええやん。

松岡 喫茶店で通さなあかん事情ができてん。

麻子 事情つて。

松岡 あの男の人、荒木さんて言うねんけど、俺
に執筆依頼してきた先方みたいやねん。

麻子 何それ？ え？ どっち？

松岡、振り返り荒木達の方を見る。

松岡 何か頑張つて書いてる方。

麻子、衣服を整えていて見えていない。松岡、麻子の方
に向き直る。

麻子 頑張つてかいてる方？

麻子が目をやると、荒木はメモを閉じており、杉浦が
突然背中を頑張つて掻きはじめる。

麻子 (了解の)ん。

松岡 向こうは俺のこと気づいてないみたいやけ
ど。ほんでな、元々明日明後日女の子、遙
ちゃんて言うねんけど、遙ちゃんとデズニ
シーに行くつもりやったみたいで。それやっ
たら締切週明けまで延ばしてもらえるねん
けど、遙ちゃんがもう一人の杉浦君つて方
と先週シーに行つたつて言うねん。

荒木、何の話をしてるのだろうという表情で、麻子達

の方を見ている。

麻子 (荒木を杉浦と思ひ込み) ふてぶてしい顔し
てるわ。

松岡 遙ちゃんは杉浦君とは何ともなかつたつて

言うてるねんけど。あの二人が別れてもう
たら、シー行きがなくなるから、今から仕
事場戻るつて。そしたら延期はなしやつて。
てことは？

松岡 あの二人の仲にかかつてるつてことや。出
てつたらもう修復は難しそうやから、ここ
で何とかせな。状況飲めた？

麻子 人ん？

松岡 もうええわ。とにかくここは喫茶店つてこ
とになつたから、頼むわ。それ出して来て。

麻子 小道具の営業許可証とかあるで。

松岡 そこまではええから。

松岡、奥の部屋へ。麻子、テーブルへ。荒木達、麻子
の衣裳を見て時が止まる。

麻子 お待たへしました。

麻子、テーブルにビールを置く。

遙 …：カプチーノ頼んだんやけど。

麻子 はい。

遙 これ、ビールとちやいますか？

麻子 カプチーノです。

遙 何処がカプチーノなんですか。

麻子 …泡が。ソフ。

遙 いやあの、ソフって…。

麻子 キヤハハハハハハハハハハハハ。

遙 酔うてるやん。何この店。

荒木 (杉浦に) 座れや。

杉浦 ああ。(麻子に) すいません。

麻子 麻子です。

杉浦 麻子さん。

麻子 麻ちゃんです。

杉浦 麻ちゃん、椅子もうひとつ…。

麻子 椅子？ あ、はい。

麻子、持っていたお盆をその場に放り投げ小道具と書かれた箱の中から分解された椅子を取り出し、組み立てて渡す。

杉浦 え？

杉浦、怪訝な表情で座る。

杉浦 麻ちゃん、何か食べ物頼みたいねんけど。

麻子 どうぞ。

杉浦 …いや、あの、メニューは？

麻子 え？

杉浦 メニュー。

麻子 ちよっと待っててな。

杉浦 タメロ？

麻子、お盆を小道具とマジックで書かれた段ボールからメニューを出す。

麻子 はい。

メニューを杉浦に渡し、荒木の横へ。荒木の肩に手をやる麻子。

麻子 店長から大体、事情聞いたよ。先週の週末

のこと。

荒木 何で喋るかな…。

麻子 …良心の呵責は、なかったんかな？

荒木 …あつたらこんなことにならへんのどちゃ

う？

麻子 そう。…遙ちゃんは杉浦君とは何もなかったって言うてるみたいやけど。そこんこ

はどうなんやろ。

荒木 …俺かてそう思いたいけど、夜の杉浦君は

人格が変わるから…。

麻子 …酷いな。

荒木 寝取られる方が悪いんかもな。

麻子、お盆を拾って、荒木の頭をはたく。

荒木 !

麻子 (わざとらしく) すいません。

荒木 ?

麻子 (杉浦に) あんなんに負けたらあかんで。ほな、決まったら、呼んでな。

麻子、奥の部屋へ。杉浦、メニューに目を通す。

杉浦 読めへん。

荒木 何でもええやろ。

杉浦 (奥に) すいません。

松岡、呼ばれて戻って来る。

松岡 はい？

杉浦 注文いいですか。

松岡 え？ 注文？

杉浦 (メニューに書かれた料理名を指して) これ…。

勿論文字が読めないんで、メニューと杉浦を交互に見て考える松岡。

松岡 ひじきの炊いたのがお一つ。以上でよろし

いですか。

杉浦 え？

松岡 じゃあ、メニューお下げします。

荒木 喫茶店ちゃうんか…。

麻子、出て来る。

松岡 何でこんなことに…。

麻子 店長。

松岡 え？ あ、はい。

麻子 風が強くなってきました。

松岡 そんな報告は要らないです。

麻子 看板入れて来ます。

麻子、玄関へ。

松岡 …おまえかあ！

杉浦 あの、頼んだのまだ来ないんですけど。

松岡 (ボン) 今頼んだところやろ。

松岡、奥へ。麻子、看板を中へ戻す。荒木、煙草をくわえる。

麻子 おい、そのチンコ。

荒木、くわえていた煙草を落とす。

荒木 …俺？

麻子 禁煙や。

麻子、奥へ。荒木煙草の箱をしまっ。

荒木 (杉浦に) 何笑っとんねん！

杉浦 笑うてないわ！

荒木 ホンマ、何でこんなトコでおまえと出くわ

さなあかんねん。つけてたんか。

杉浦 んなわけないやん。

肩を露出した薄着の女性ミラ、手にジュースの缶を持って凍えながら部屋の入口に立っている。

杉浦 ?

ミラ ジェフ呼んで下さい。

杉浦 え？

ミラ ジェフ。

杉浦 あの…。

前の道で車止めてジュース買ったんですけど、そしたら鍵を、ついあの、インキーしちゃって。

杉浦 えっとあの。

荒木 あの…。

で、あのジェフ呼ぼうと思ったんですけど、携帯も車の中で。それでえっと、ジェフ呼んでほしいんですけど。

麻子、奥からゴミ袋を持って出て来る。

荒木 (麻子に) すいません。

麻子 (日本語英語以外で) うるさい。

麻子、玄関へ捨てに行く。

荒木 …。

杉浦 あの、JAFですよ。

ミラ あ、JAFです。

荒木 ミラさん？

ミラ はいそうです。荒木君？

荒木 びっくりしましたよ。いきなり入って来て

ジェフ呼んでくれて。

ミラ 電話貸して。

荒木 あ、はい。JAFの番号調べますわ。

遙 幸助の携帯に登録してる。

荒木 …え？ 何で？

荒木、携帯を取り出し、確認する。
千鳥足で戻って来る麻子。

荒木 …ジャンカラ、ジャロ、JAL、ジャマイカ。

遙 何これ？ めっちゃ登録してるやん。

荒木 便利かと思って。

荒木 (ボン) 何で勝手に…。ジャマイカは要らんやろ。

麻子、足を止める。

麻子 …ジャマイカは存在しなくてもいい国って

意味ですか？

荒木 え？

麻子 レゲエに市民権はないって言いたいんです

か？
荒木 いやあの、…違います。
麻子 そ。

麻子、フラフラと歩き出す。

荒木 …(JAFの番号が)何処にあるねん(ボン)。
麻子 (振り返り) 中南米や！
三人 …。
麻子 …刺すぞ。

麻子、奥の部屋へ。荒木達ちょっとトーンダウンする。

荒木 …番号、何処や。
杉浦 今見てたやろ。
荒木 JAFの。
遙 もうちよっと上。
荒木 あった、これ。
ミラ ありがとう。

ミラ、荒木の携帯電話を奪うように取る。

遙 誰？
荒木 えっとミラさんって言うて…。
ミラ 荒木君はウチのパパの会社の社員なんです。
杉浦 パパ…。
ミラ パパって、そっちのパパじゃなくて。

杉浦 わかっていますよ。
ミラ 不適切な関係の方です。
杉浦 …。

ミラ、電話をかける。

ミラ もしもし、あの、JAFです。(自分の頬を叩く) JAFさんですか。いつもお世話になってます。
遙 いつも？
ミラ ちよっと、鍵、インキーしたんです。はい、あの、そうです。どう思います？ はい、はい、それで来てもらいたいんですけど。
…今、民家フェにいます。…住所？ 荒木君、こここの住所って？
え？ いや…。

荒木 桜町二の七の十八。
杉浦 桜町二の七の十八。
荒木 何でわかるねん。(ミラに) 桜町二の七の十八です。
ミラ 桜餅胃の中で蒸発…。
荒木 桜町二の七の十八。
ミラ 車種ですか？
荒木 すかさされた。
杉浦 エルフです。
ミラ トラック？

…わかりました。…はい。じゃ、こちらの番号に。はい、お願いします。

ミラ、電話を切って自分の懐に。

ミラ 今から来るって。
荒木 そうですか。あ、どうぞ座って下さい。
ミラ あ、はい。

ミラ、着席。

荒木 御無沙汰してます。
ミラ …そっか、冷凍みかんを…。
荒木 だから何で話わかるんですか！
ミラ 外にいたら話聞こえて来たのね。
荒木 いつから外におったんですか！
ミラ 女の子の声で、こーう(違うポーズ)やんか、って。三五〇キロでこーうやんか、って。
遙 違うわ！

松岡、皿にヒジキを盛って出て来る。

松岡 ひとり増えてる…。

ミラを見てへたれ込む松岡。

ミラ 何かあったの？
松岡 これかあ。

松岡、看板に気づき、項垂れる。

荒木 …俺の彼女が俺の知らん間に俺の親友と

思ってた奴とデズニイシーにお泊まりして

逢 たんです。

逢 幸助。

松岡、テーブルに皿を置く。

松岡 シー？ ランドじゃなくて？

やっぱ、そこに拘るんですか。シーに何が

あるんですか。

知らない。けどたぶん上半身魚のミツ

松岡 キューとかが。

そんなミツキューは、子供も泣き出すか

と。

彼女がシーにねえ。それでこのカップルに

荒木 慰めて貰ってんだ。

え？ いやあの。

荒木 そっかあ。そんな人の気持ちのわかんない

娘、もういいじゃない。

荒木 せやから。

それとも、あれ？ 可愛い娘だから諦めら

逢 れないとか？ 因みにどんな娘なの？ 牛

に喩えたら。

逢 何で牛限定なんよ。

逢 海牛？

海牛、牛ちゃうやん！

荒木 せやからここにおる逢が彼女やったんです。

逢 何で過去形なんよ。

荒木 合ってるやろが。

逢 ああ…。

杉浦 (ひじきを食べながら) すいません。何かぐ

だぐだなど見せて。

荒木 おまえが言うな！

逢 …えっと、(曖昧に) フフ子ちゃん？

逢 逢。

逢 怒ってるよね。ごめんね。可愛い娘とか言っ

ちやって。

逢 そっちやなくて、海牛！

逢 海牛ごめんね。それでこっちの彼は…。

逢 何で今海牛に謝ったん？

逢 あ、ホントだ。でこっちの彼は？

荒木 杉浦っていうて、僕と大学時代同じ学科で。

逢 まあけどこいつは補欠の繰り上げで入った

んですけどね。

杉浦 荒木とは霊長類の同じヒト科で。でもこい

つは補欠の繰り上げで――

逢 遅れて進化してきたみたいに言うな！

逢 羨ましいな。そうやって喧嘩できる相手が

いるって。何か兄弟みたいで。あ、ごめん。

逢 兄弟とか言っちゃった。

逢 …。

逢 全員 ホントあの、そういう意味の兄弟じゃなく

逢 て。

松岡 パンチドラランカー？

逢 えっと、聞いて聞いて。ミツキューの物

逢 真似できるんです。…オッス、俺――

逢 言わへんわ！

落雷。

逢 …す、凄いつツコミ。

逢 ちやうわ。

逢 近くっばかったね。

逢 珍しいな。こんな時期に

逢 どうしたの？ 荒木君？

荒木、顔が強ばってる。

逢 幸助、雷苦手やから。

逢 そうなの？

逢 怖い話とかも苦手やし。

逢 ええやろ別に。

逢 ツアー中にホテルで聞いた話なんだけどね。

逢 そこに昔ある歌手が泊まったの。

逢 (興味もって) はいはい。

逢 その歌手って、歯茎にびっしりニキビのあ

逢 る人なんだけど、その人が――

逢 ちよっと待って。

逢 何？

逢 荒木 それが既に怖いんですけど。

逢 荒木

ミラ 全然まだ話始まってないんだけど。

問。

ミラ ちよっとJAF遅くない？

荒木 さっき呼んだところですから。どっか行く予定ならタクシー拾った方が…。

ミラ うん、いいの。あの、打ち上げだけだから。

どうせ、携帯ないと何処でやってるか分からないし。ホント今日は私どうかしてる。それにトラック置いていくわけにもいかなから。ツセーリゲンシヨー(くしゃみ)！

荒木 ミラさん、何か温もるもん頼みます？

ミラ あ、うん。(松岡に) すいません。

松岡 ？

ミラ カクテルはどんなのができるのかな？

松岡 どんなんがって言われても、ビールにひじき入れるくらいしかできないですけど。

ミラ 荒木君、(立ち上がる)店代えて二人で飲みませんか。

松岡 ちよちよちよ、カクテル、何でも言うてもらったら作りますんで。

荒木 ミラさん、あきませんよ。運転するんですよ。

ミラ トラック朝まで置いておくし。

松岡 いや、前、一方通行ですから。

ミラ じゃ、珈琲で。

松岡 かしこまりました。

遙、がばっと立ち上がる。

松岡 (帰ると思って) ああ、遙ちゃん、待って！

遙 トイレ何処ですか？

松岡 あ、こっちです。

松岡と遙 奥へ。

杉浦 荒木、時間のこと、ちよつとは頭に入れて

荒木 てください。

杉浦 だから行かへんって。

荒木 時間って？

杉浦 ホンマやったら荒木と遙ちゃん、今から夜

行バスに乗ってデズニシーに行く予定

杉浦 やったんですよ。

ミラ え？ 先週行ったんだよね？

杉浦 それは俺と遙ちゃん。今日は荒木と遙ちゃん

杉浦 さんが行く予定で。けど、急に行きたくない

杉浦 とか言い出して。

荒木 おまえのせいやろ！

ミラ バスって何処から？

荒木 大阪駅ですけど。

ミラ 何時のバス？

荒木 いや、今日はもう…。

ミラ 何バス？

荒木 え？

ミラ え？ 何人乗り？ え？ 運転手何て人？

荒木 何でそんなバスに食いつくんですか。

ミラ あれだったらトラックで送ってあげるから。

間に合わなかったら、そのまま東京まで飛ばしてあげるし。

杉浦 荒木、そうしてもらえ。

荒木 いや…。

杉浦 あの、デズニシーって何処にあるの？

ミラ 閑空がこことするやん。

杉浦 何で閑空から説明するねん。

荒木 ここがデズニ佐野な。

杉浦 …泉佐野や。

荒木 この辺にデズニ大津があつて。

杉浦 泉大津や。

荒木 その隣。

杉浦 和泉市や！ イズミーシーや！ ☆×※るぞ！

荒木 麻子、戻って来る。

麻子、戻って来る。

麻子 すいません。他のお客様に迷惑ですんで—

荒木 他におらんやん。

麻子 —できれば自爆して下さい。

荒木 何でやねん。

麻子 自分の胸に手当てて考えてみたら。杉浦君。

問。

荒木

：俺、荒木やけど。

麻子

は？ 何言うてんの？

荒木

麻ちゃんこそ何言うてんの？

麻子

え？ あれ？ …てことは、…ダブル荒木？

荒木

ちやうやん。そっちが杉浦。

麻子

杉浦君？

杉浦

はい。

麻子

あ、そうなん。…ま、こういうこともあるよ。あるある。おまえかー！

麻子、杉浦の椅子を蹴る。杉浦、椅子から転げ落ち、その拍子に何処かぶついたらしく、床で転げ回る。麻子、土下座。

麻子

すませんした！

荒木

あの…。

麻子

生殖器呼びわりしてすいませんでした！（杉浦に）おまえも謝れ！ 遙ちゃんとやることやってごめんなさいって！

杉浦

変なこと言わんとってや麻ちゃん！ ちゃうねん荒木。遙ちゃんな、おまえとすれ違

杉浦

いが続いてて凹んでたから、向こうですつとおまえのフォローしとったんや。

荒木

冷凍みかんもか。

杉浦

あーんて言われたらあーんてするやろ。

麻子

ほな、死ねって言われたら死ぬんか？

杉浦

今、何やってんの？

麻子

えっと、バイト。

杉浦

麻ちゃん、ちょっと黙ってて。遙ちゃんかてちよっと気晴らしが必要なだけやってんて。荒木とは、仕事仕事で全然会われへんし、

麻子

荒木、会社でも女の人に人気ありそうやから、たぶん心配やってんて。

杉浦

何でそんな嫌味言うん？

ミラ

ちよ、待ってよ麻ちゃん！

杉浦

気晴らしして、大事ですよ。うちのバンドのベースの子もね、相談受けてただけ

麻子

ど、別に何も、違う、あの子はやったんだ。

杉浦

（慌てて）わあ！

麻・杉

（荒木に）ないって！ 二人ともそれはわかってるから。

杉浦

て言うてますけど。

荒木

…遙は杉浦がしつこくて断れへんかったて言うてたぞ。

麻子

…（ミラに）バンドやってるんですか？

杉浦

話逸らすな。

荒木

今ライブの帰りで打ち上げ行くところで。

麻子

あ。

杉浦

麻子…。

荒木

あ、ひ、久しぶり。

杉浦

気まずい雰囲気麻子とミラ。

ミラ

今、何やってんの？

麻子

えっと、バイト。

杉浦

そう。劇団の方で成功してるって聞いたけど。

麻子

えっとあの、自分こそ今何やってるん？

杉浦

ベビーパウダーってバンドやってる。

杉浦

ベビーパウダー？

ミラ

？

杉浦

ミラって、もしかしてベビーパウダーのミラさん？

荒木

うん。

杉浦

知ってるん？

麻子

うーわ。マジすか。俺親衛隊に入ってるんですよ。

杉浦

ああ、気づかんかったなあ。

ミラ

だってほら、ライブの時は白塗りだし。鼻とか口とか。

麻子 ようカラオケで歌わせてもらってる。あの

ギターの子何って言うたっけ？ いつもエ

ロい格好の子。

栗栖川トリス。

最低や。

あの人幾つなんですか？

私と同じ。

同じって言うてましたね。てことは俺より

幾つ上なかな。

私、荒木君の一個下だよ。

下でしたっけ？

何言ってるんの荒木君、私とエロい子とは下

じゃない。

そうでしたっけ。

荒木、遙が奥から出て来る。

ミラ 荒木君、私とエロイコトシタじゃない。

荒木 はいはい。

遙、ショックのあまり持っていたポーチを床に落とす。
その首で荒木、遙が戻って来ていたことに気づく。

荒木 遙、違っ！

遙、椅子に置いていた自分の荷物を取る。

遙 ウチ、帰るわ。

杉浦 遙ちゃん！

遙、出て行く。

杉浦 ちよっと待って。遙ちゃん、誤解やって。

荒木、早よ引き留めて！

どうしたの？ 何かあったの？

あなたのをせいや。

...

杉浦 荒木。遙ちゃんは荒木に追いかけてほしい

んやって。

そんなことないやろ。

雨音。

ミラ 遙ちゃん、傘持たないで出てったんじゃない

い？

荒木 ...

問。

麻子 荒木君！

荒木 関係ないやん。

杉浦 何やってんねん。

荒木 ...

麻子 今追わなかったら、確実にさよならやで。

荒木 ...

ミラ 荒木君、今ならまだ追いつける。

杉浦 (ボン) 追いついたら駄目です。

荒木 ...荷物見てて。戻って来るから。

麻子 あ、ついでに卵買って来て。

荒木 は？

麻子、紙幣を渡す。

麻子 その辺のコンビニで。

荒木 その辺で。

杉浦 ラーメン屋あるやん。

荒木 何処の？

杉浦 ほら、大将が女装してる。

荒木 ああ。

杉浦 その隣にあるわ。

麻子 一パック。お願いな。

荒木、行きかけて。

麻子 ああ！ 二パック。

荒木 ええ？

麻子 ...やっぱ一つでええわ。外に二人用のレイ

ンコートあるから。

荒木 二人用？

荒木、遙を追いかけて出て行く。

麻子 トロいな。
杉浦 遣い頼むからやろ。

麻子、杉浦を叩く。ひたすら叩き続ける。

杉浦 ちよ、何でや。待って麻ちゃん！ 痛い！
痛いって！

徐々に激しくなる麻子。

杉浦 痛いって！

麻子、懐に持っていたかんざしを取り出して構える。

杉浦 仕事しろよ！

麻子、真顔でかんざしを杉浦に突きつけてくる。

麻子 仕事…。

杉浦 わああ！ ちよ、何すんねん！ちやうって！
そっちの仕事とちやうって！

麻子、攻撃をやめる。

ミラ 杉浦君メール来てるよ。

杉浦 え？

ミラ 杉浦君メール来てるよ、杉浦君メール来てるよ、杉浦君メ。

杉浦が携帯を開くとミラ、言いやめる。

杉浦 …。

杉浦、メールを確認する。

杉浦 ミラさん、みんな探してますやん。
ミラ え？

杉浦、電話を掛ける。

杉浦 …もしもし。ミラ親衛隊関西第五支部第四

席の杉浦です。

麻子 …。

杉浦 …はい。よろしいですか。会員ナンバー
0021、認証ナンバーK0542219
です。

問。

杉浦 はい。えっと、姫と今一緒にいるんですが。

…はい。愛車をインキーして、JAF待ち
です。で、携帯もトラックの中です。…は
い。…あ、お願いします。…二の七の十八。
間違いないです。それと第一級通達お願い
したいんですが。…はい。JAFに勤務し
てる親衛隊員がいたら、便宜を図ってもら

うようお願いします。…今探してくれてる、

はい。ああ、こっちに向かってたJAFの
車に落雷で次のJAFが…。わかりました。
はい。お疲れさまです。

杉浦、電話を切る。

杉浦 ということです。
麻子 いや、何それ。

松岡登場。ミラに珈琲を出す。

ミラ ありがと。

松岡 あれ？ 二人は？

麻子 出った。

松岡、床に手をつけて落ちこむ。

麻子 (松岡に)ごめん…。

麻子、床に手をつけて、頭を垂れる。

ミラ 荷物置いてるし。すぐ戻って来ると思
うけど。

松岡 そっか。戻って来るよ。ああ、気にせんとっ
て。もともと俺が悪いねんから。

麻子 …吐きそう。

松岡 え？

麻子 ちよっとじっとしてたらよくなるから…。

麻子、その辺で眠る。

杉浦 嘘？ 何この店？

松岡 気さくさがモットーなもんで。

ミラ 時間あるし、歌詞でも考えよっかな。

杉浦 お。

ミラ 杉浦君、何かアイデアない？

杉浦 雨中彼女を追いかける男の歌とかどうス
か？

松岡 何それ。

ミラ、歌詞を書き始める。

松岡 音楽やってはるんですか？

杉浦 ベビーパーウダーって知ってる？

松岡 嘘？

杉浦 知ってる？

松岡 ああ、透け透けセーラー服じゃないから気
づきませんでした。

杉浦 ちやうちやう。トリスさんやなくて。

松岡 姫？

杉浦 「姫」って言うってことは？

二人、財布から隊員証を出す。

二人 おお。

杉浦 関西第五支部第四席の杉浦です（敬礼）。

松岡 元関西本部特殊工作班の松岡です（敬礼）。

杉浦 特工か！

松岡 ミラさん、パンチドランカーとか言うてす
いませんでした。

ミラ どういたしまして。

松岡 杉浦君、親衛隊は身近な人の恋を応援する
のが基本原則やろ。

杉浦 荒木と逢ちゃんのここと？

松岡 そうや。

杉浦 あいつらな、ほっといたらたぶん別れてた。
空気が激めば窓を開け、冷たい風を入れれ
ばいい…。

松岡 …ミラさんの歌詞やないか。

杉浦 実践した。

松岡 何であんな歌詞書けるんですか。

杉浦 うーん。思ったことをそのまま言葉にし
るんだけど。

松岡 好きなフレーズとかよう使わせてもらいま
した。

ミラ そうそう。

松岡 自分何か書いてるん？

杉浦 日記に。

松岡 日記な。…凄いやんでた時があって、その
時にめっちゃあの曲聴いてました。

杉浦 あの曲？

松岡 …

杉浦 …

松岡 …

杉浦 …

松岡 …

杉浦 …

松岡 ♪拗ねて唇突き出す癖とか…。

ミラ、歌い始める。

♪拗ねて唇突き出す癖とか

風呂上がりビール飲むこととか

レゲエに詳しくなったこととか

君と会わなくなって まだ君は

僕を染め続けている

君の中にはあるのかな 僕の色

何処か一カ所でもあるのかな 僕の色

多分君は僕の色に染まらない強い色

松・杉 うおおお！

松岡と杉浦、キャッキヤ言う。

杉浦 一人称ボクって多いですよ。

松岡 そうかも。そっちの方が歌詞にしやすく

松岡 めっちゃ自分に当てはまったんですよ。

松岡 塗り変えられた部分？

松岡 ええ。ベビーパー聴くようになった人もそうや

松岡 し。…けどその相手はまた別の人の影響を

受けて。

杉浦 昔あったな。片思いの子に彼氏おって、普通女の子があんま興味持たんようなジャンルの曲とか聞いているねんな。そういう話を嬉しそうに話してくんのがまた辛い、みたいな。心の中で凹んでんのに、上辺では笑っ

聞いている自分、みたいな。
杉浦さんって何でそんな才能あるんですか。そら小さい頃からずっと音楽やってたんでしょ？

ううん。
ちやうんですか？
学生の頃までは演劇やってたんです。

うん。こっちの世界に入ったのは卒業してから。
ああ、ミラさんの書く恋愛劇とか面白そう。ずっと麻子の方が書く才能あったからね。

吉野と一緒にやってたんですか？
うん。
へえ。演劇続けようとは思わなかったんですか？
いろいろあってね。
いろいろ？
秘密です。

ミラさんっていつからミラさんなんですか？
え？

杉浦 ミラさんになる前とかあったんかなって。
ミラ 秘密です。

荒木と遙、戻って来る。

杉浦 荒木。

麻子、起きあがる。

松岡 よかった。

麻子 戻って来た？

荒木 外えらいことになってるで。

松岡 え？

遙 妻い渋滞出来てる。

松岡 渋滞？

遙 トラックが邪魔で。

松岡 そら、こんな狭い一方通行に止めてるから。

車の警笛。

荒木 これ、卵。

荒木、麻子にコンビニの袋を渡す。

麻子 ありがと。

ミラ ちよっとしばいて来ます。

荒木 え？ ミラさん？

ミラ外へ。松岡と杉浦も會弟のようについて行く。

麻子 荒木君もついてたげて。この卵なくなるまでぶつけといて。

荒木 は？ 何でやねん。何のために買うて来させてん。
こんな時のために。さあ。

荒木、渋々外へ。

麻子 よかった。戻って来て。

遙 ……
荒木君何て？

遙 ……俺も時間作らんで悪かったって。

麻子 そっか。遙ちゃんも謝ったん？

遙 ……うん。

麻子 ほんならシー一緒に行くん？

遙 うん。

麻子 二週連続？

遙 二週連続。

麻子 ランドに変えてもらったら？

遙 シーって決めてたから。

麻子 そっか。…あとはほんならJAFが来るのを待っただけやな。

遙 麻ちゃんさんって演劇やってるんですか？

麻子 え？

遙 それ。

遙、衣裳の入った段ボールを指さす。

麻子 ああ、うん。

遙 ……大学のときもしてました？

麻子 え？ うん。何で？

遙 ウチ、もしかしたら麻子さんの後輩かも。

麻子 劇団機械少女？

遙 はい。

麻子 ……機械少女？

遙 はい。

麻子 そうなん？ えっと、幾つ下になるんやろ。

遙 えっと…。

麻子 てか何でウチのこと知ってるん？

遙 だって。その頃のチラシとか脚本とか残っ

てますし。麻子先輩、劇団立ち上げたんで

すよね。

麻子 うん。

遙 今度見に行きます。みんな連れて。

麻子 来て来て。

遙 はい。

松岡と杉浦、凍えながら走って帰って来て、そのまま部屋の中へ。二人、法被、鉢巻き、メガホン姿で現れる。

杉浦声 ちよ、一回合わせて見よ。

松岡声 うん。

松岡がラジカセの再生ボタンを押すとイントロが流れる。それに合わせて応援団風の手振りを付けて歌い出す。

♪朝の九時から焼き肉食ってる

会社に行く気になれなかったから

一人で来るのもたまにはいいかも

取り敢えずタン塩十二人前

麻子、ミラの代わりに歌い出す。

夕べの君の言葉が

頭の中で回ってる

燃える炭で頬がア・ツ・イ

「サイテー」なのはどっちだよ

厨房で牛も泣いてる

全て肉で流し込んでやる

網が汚れば替えればいい

肉がなくなれば頼めばいい

空気が激めば窓を開け

冷たい風を入れればいい

麻子 しゃ！ 行けえ！

松岡と杉浦、そのまま二人、外へ。

麻子 そっか。まだ残ってるんや。機械少女。え？

役者？

遙 一応脚本書きたくて入ったんですけど。

麻子 お。ライバルやん。

遙 まあ勉強中で。部屋に残ってる昔の台本は

全部読みました。

麻子 ウチのも？

遙 勿論。麻子先輩の時代と比べたらレベル落

ちてる思いますけどね。

麻子 顔の？

遙 ……

麻子 ごめん、演技の。

遙 そんなこと言うてたらウチ、脚本で麻子先

輩追い抜くんで。

麻子 話作るんやったら遙ちゃんなんか負けへ

んで。

遙 大人げなあ。

ミラ、一旦戻って来て、小道具箱から武器を取ってまた外へ。

遙 折角やからいろいろ聞きたいことあるんで

すけど。

麻子 聞いて聞いて。

遙 学校のホールで本番中に鳩飛ばして活動停

止になりかけたんも麻子先輩の時代ですか。

麻子 そうそう。

問。

麻子

終わり？

遙

えっと、あの部室の落書き、麻子先輩の頃からあるんですか？

麻子

落書き？

遙

『脚本家にとって、千秋楽の夜は特別な時間』

麻子

『自分の作った世界が形になる、そんな幸せな時間を一番大切な人達と共に味わいたい』

遙

居の台詞やろな。へえ。

もの思いにふける麻子。

遙

…どしたんですか？

麻子

…ううん。機械少女か。もうウチのこと知ってる子なんかおらんと思ってた。

遙

シヨウコ先輩って人と同じ回生ですよね。

麻子

よう知ってるな。

遙

タミイエ先輩が大学院イェンにおるから。

麻子

民家龍子？

遙

はい。

麻子

そっか、龍子八回まで行って今は院や言うてたな。

遙

麻子とシヨウコと龍子で、三人合わせて『枳

東』って呼ばれてたって。

麻子

ううん、アサシヨウリュウ。

遙

シヨウコ先輩ってどんな人ですか？

麻子

え？

遙

何か麻子先輩といろいろあつて途中で辞めたって。

麻子

うん。

遙

全然会ったりしてないんですか？

麻子

そっか遙ちゃん知らんのか。それが今日さ…。

遙

え？

麻子、外を指す。

遙

マジっすか？

麻子

劇団辞めてよかったんやろうな。今はファンもおるみたいやし。

遙

何があつたんですか？

麻子の手にかんざし。

遙

…かんざし？

麻子

おばあちゃんの形見やねん。

遙

…何があつたんですか？

麻子

…ウチに告白してきてん。

問。

遙

え？ 告白って…。

麻子

今でも覚えてるわ。ガクガクウて足震えて怖い顔して。しかもちよっと泣いてるし。

遙

嘘…。

麻子

ウチ、めっちゃ引いてた。

遙

ほんで、どないしたんですか？

麻子

断った。

遙

そら、そうですよね。何かそんな話聞いたら、見方変わるなあ。

荒木、戻って来る。

麻子

丁度今日みたいな二月の一番寒い日やった。

遙

で、その時稽古中やった『血まみれバボちゃん』が終わってすぐに辞めてってんけどな。

遙

…あの、かんざしは何処で…。

麻子

何？ え？

遙

かんざし。

麻子

何で？

遙

何でって…。

荒木

フィクション！ ノンフィクション！（くしゃみ）

遙

幸助。

荒木

ん？

遙

前にウチのOBで吉野麻子って先輩の話したやろ。

荒木 うん。

遙 麻子先輩。

荒木 そうなん？

麻子 吉野麻子です。

杉浦、松岡、ミラ、戻ってくる。

杉浦 JAF来た！

一同一斉に出かける準備をする。

麻子 荒木君、まだ間に合うやろ。

荒木 上で行けば。

ミラ 大阪駅まで？

荒木 はい。お願いします。

麻子 …ウチの荷物も載る？

ミラ 載るよ。

麻子 ほんなら、みんなこの辺の荷物載せるの手

伝って。

全員 おう！

麻子、奥へ。松岡、椅子を運び出すようにしている。

荒木 店長、何で椅子まで運んでるん？

松岡 え？ いや、その、明日ね、テーブルも椅子

も新しいのが入るんですよ。それで今の

を吉野の劇団にあげるようになって。

荒木 はあ…。

松岡 ミラさん、飲んでないですよね。

ミラ 飲んでないです。

荒木 ミラさん、今日、社長のトコには行きます？

ミラ ううん。打ち上げ行って帰る。

遙 あれ？ せや、パパがおるんや。

杉浦 打ち上げかあ。いいなあ。

ミラ 良かったら一緒に来ます？

杉浦 いいんですか？

ミラ 杉浦君が良ければ。

杉浦 しゃ！

ミラ 店長さんは？

松岡 いや、ちょっと今からは…。

杉浦 そっか。残念やな。

ミラ あの…。

松岡 はい？

ミラ ここから高速って？

松岡 その一通の次の信号ででっかい道にぶつか

るから、左にずっと真っ直ぐ行ったら高速

の入り口の標識見えますわ。

ミラ でっかい信号機にぶつかって…。

杉浦 俺わかりますから。

ミラ あそう？

遙 …ミラさんって、麻子先輩と同じ学年やっ

たんですよね。

ミラ え？ うん。

遙 やっぱ合ってるんか。

ミラ 高校の時同じ演劇部で。

遙 高校？ え？ 機械少女は？

ミラ 麻子のいた所でしょ。大学のサークルだよ

ね？ 見たことないけど。…麻子の後輩？

遙 はい。

ミラ 私には演劇は遊びだったんだ。けどね、麻

子にとっては命みたいなもので。その辺が

合わなくてさ、ずーっと気まずい感じが続

いちゃって。けど、今も麻子が頑張ってる

の知ったし、麻子も私が高校卒業してから

音楽で頑張ってること知っててくれたし、

うん。

遙 …ミラさんて、下の名前何て言うんですか？

ミラ …本名。横嶋深楽（ヨコシマミラ）。

遙 ショウコじゃないんですか？

ミラ え？ ううん。

遙 じゃあ、全部デタラメ？ 「話作るんやっ

たら遙ちゃんなんか負けへんで」ってそう

いう意味？

荒木、ポケットを探っている。

遙 どうしたん？

荒木 あらへんねん。

遙 何が？

荒木 チケット。

全員 えええ？

遙 「財布は？」

荒木 みたけどなかった。

遙 七回捜した？

荒木 七回？

杉浦 俺一回も触ってないし。

遙 ウチも。

松岡 ポケットは？

麻子、最初の服に着替えて戻って来る。

麻子 乾いた乾いた……。どうしたん？

松岡 チケットがないって。

麻子 え？

荒木 ええ？ どこ行ったんや。

ミラ 鳴らしてみたら？

全員 何を？

麻子 最後に見たのは？

荒木 ここでさっき出したから。

杉浦 ああ、意味なく投げつけて。

荒木 意味はおまえやろ！

麻子 喧嘩しいひんの！

杉浦 で、店長が拾って。

松岡 荒木さんに渡して。

麻子 トイレは？

荒木 行ってない。

遙 そういえば幸助、今日一回もトイレ行ってないやん。

麻子 え？ 一回も？

遙 ここ来るまでも缶コーヒー二本も飲んだのに。

杉浦 ちよ、待って。みんな一日何回くらい行くもんなん？

杉浦 ウチさっき行った。

遙 行ってたな。冬の方がよく行くよな？

杉浦 冬の方がよく行くよね。

ミラ トイレの頻度チェックはええからチケットを！

荒木 みんな自分の財布確認しよう。

麻子 あ！

ミラ ありました？

荒木 財布がない。

ミラ えええ？

全員 トラックちゃんですか？

杉浦 トラックじゃなくて財布。

杉浦 じゃなくてトラックの中に。

ミラ ジュース買うときに持ってたもん。

杉浦 一応トイレ見て来る。

麻子

麻子は奥へ。松岡は外へ。

乗れって！

荒木 なかったら行っても入れられんやんけ！

杉浦 わかってるけど、探してる時間ないんやろ。

予約してんねんから、向こうで名前言うたらわかるやろ。

杉浦

戻って来た麻子、ふと部屋の隅に財布が落ちてるところに気づく。

麻子 あった！

荒木 ふう。

麻子 これちゃう？ 財布。

荒木 財布か。

ミラ ……違う。

麻子 え？ 誰の？

荒木 店長のと違うん？

麻子 かな？ あ、ホンマや免許証入ってるわ。

写真見たろ。

麻子、免許証を見る。で、無言で財布に戻す。

麻子 知らんや。

麻子、みんなに財布をなすりつけようとして、みんな逃げる。

荒・杉・遙 えええ？

荒木 誰の財布？

杉浦 何を見つけて来るんや！
麻子 そんなこと言われても。

床に財布が落ちて、遙が拾う。

遙 これって他のお客さんが忘れていったんと

麻子 ちゃいます？

遙 う、うん。そうかも。

麻子 また取りに来ますよ。

遙 うん。そうやね。ええええ？

遙、財布から紙幣を二枚程抜いてポケットへ。

遙 チケット入ってる。

荒木 デズニイシーの？

遙 イズミーシー。

全員 ええええ？

杉浦 もうイズミーシーでええやん。

荒木 行ってどうするねん！

ミラ それです、財布！

四人 え？

ミラ それ、うちのスタッフのなんです。ライブ

会場です。忘れてたから預かって。で、ジュー

ス買うときに私の財布鞆から出すの面倒く

さくて、それで。

杉浦 そっか。よっしゃ。ほなみんなトラックに。

遙、紙幣を戻し、ミラに頭を下げながら返す。

荒木 いやあの、俺のチケットが。

杉浦 まだ見つからへんのかいな！

荒木 全然探してくれてへんやんか！

遙 …もっかいポケット見てみたら？

荒木 うん…。

遙と杉浦、メガネメガネ風に床の上を探している。

荒木 おまえら探す気ないやろ。

麻子 チケット出て来い。(まじない)

荒木 普通に探してくれよ！

松岡、凍えて戻って来る。

松岡 外に落ちてた。

杉浦 おお！

荒・杉・遙・ミ 凄いな、麻ちゃん！

荒木 焦ったあ。助かったわ、麻ちゃん。

杉浦 今のどうやったたらできるん？

ちやほやされて照れ笑いの麻子。

松岡 外寒かった！ 外寒かった！

みんなにかまわれながら、麻子の視線は松岡へ。

ミラ じゃ行こっか。

杉浦 俺、ちよっと家戻って来ます。

荒木 そんな時間ないって！

杉浦 すぐ裏やから。ゲームつけっぱなしで出て

来てもうて。

杉浦、出て行く。

松岡 自分か！ 毎晩夜中にゲームやってんの！

遙、ミラ、出て行く。

松岡 ホンマ、なんちゆう一日や。これで土日確

保か。けど、二日増えたからって書けるん

かな。

麻子 大丈夫大丈夫。

松岡 吉野の大丈夫は昔から根拠がないからなあ。

麻子 へえへえ。

松岡 けど何でかいつも大丈夫やって思えてくる。

麻子 フフ。

荒木 さっき聞きそびれてんけど。

麻子 ？

荒木 劇団やってるんやんね。

麻子 知ってんの？

荒木、名刺を渡す。

荒木 ネットで舞台とかお笑いとか音楽とか野菜とか配信してる会社やねん。ドラマ制作もしてて、吉野さんとこの役者さん使おうって話が出ててさ。

麻子 ホンマ？

荒木 遙が教えてくれて。また連絡するわ。

麻子 うん。

荒木 今日千秋楽やったんやろ？

麻子 うん。

荒木 俺、行かれへんかってさ。絶対次見に行くわ。

麻子 期待しといて。

荒木 せやせや、俺の同僚が昨日見に行っただけどさ。持ってた差し入れ食べんとってほしいって。

麻子 そうなん？

荒木 当たったらしいわ。ごめんな。

麻子 ええ？ まだみんな食べてないと思うけど。どの差し入れやろ？

荒木 「祝公演」の字を間違えて書いたって。

麻子 …ああ。

松岡 …ああ。

ミラ、外から顔を覗かせる。

ミラ 麻子、乗せるのこれだけ？

麻子 うん。あ、看板や。

ミラ、また外に戻る。麻子、看板を持って出る。

松岡 あの。

荒木 ？

松岡 お勘定は誰が？

荒木 …え？

松岡 お勘定。

荒木 …もうええって。ここ、ホンマは喫茶店ちゃうんやろ？ 麻ちゃん看板まで乗せてるやん。

松岡 えっと…。

荒木 いやな看板出てたから喫茶店やと思うて入っただけ。最初からおかしいと思っただん。何処にも営業許可証貼ってないし。

松岡 そこか…。

荒木 ごめんな、俺も最初の方さ頭にかあって血いのぼったから。ホンマ冷静に判断したらわかることやのに。

松岡 でも珈琲とか飲んでるし…。

荒木 けど何か急に事情があったんか、喫茶店でも何でもないのに喫茶店っていうので話合わせてみたいいな感じやったけど。何で？

松岡 …それはですね。あの。…それ答えても、遙ちゃんとデズニイシーに行くのは変わらへんって約束してくれます？

荒木、少し考える。

荒木 ええよ。窮地を脱したの、店長のお陰なんやし。あ、店長ちゃうか。

松岡 実は、僕が松岡なんです。

荒木 …え？

松岡 脚本の。

荒木 脚本？

松岡 日曜の晩にはメールで入れときますんで。

荒木 メール？ 何の？

松岡 …せやから戯曲…。

荒木 え？ 何で？

松岡 何でって。だって。え？

荒木 …え？ 何のこ言うてる？

松岡 僕、松岡ですけど。

問。

荒木 え、それって俺が電話で松岡先生の話してたから？

松岡 えっと…。

荒木 松岡先生って女の人やねんけど。

松岡 よく間違えられるんですよ。

荒木 五十代のサイバミたいなおばさんやけど。サイババっていうかサイバイマンっていうか。

松岡 …え？

荒木 何か話が食い違ってるみたいやね。

遙と杉浦戻って来る。杉浦、腹痛らしく顔を歪めている。

遙 幸助、早く！

荒木 何か知らんけど、頑張ってるな。ほな。今日はホンマありがとう。

荒木達、出て行く。松岡、その場にへたれ込む。間。

松岡 …花火中止になれ（まじない）。

溜息をつく。

松岡 腹減った。晚饭食べてないんや。…またラーメンかな。…今週何回目かな？

麻子、戻って来る。

麻子 さあて、飲み直しや。

松岡 吉野？

麻子 ん？

松岡 乗ってかへんかったん？

麻子 え？ 荷物だけやで。降ろすのは、向こうにうちの劇団の子が待ってるし。

松岡 いや、場所わからんのちゃうん？

麻子 大丈夫大丈夫。

松岡 それより、ちやうかかってんて！

麻子 ごめん、ちよつと待ってな。先、電話せなあかんから。

松岡 時間返せえ…。

麻子、電話を取る。

麻子 吉野です。あ、お疲れさま。…うん。遅れるんやろ。聞いているよ。何でって、今その

松岡先生の家におるから。

松岡 ？

麻子 めっちゃええ感じの話になってる。あとちよつと直しだけしてもらって。…そう。

後は任しといて。ええの書いてもらうからはい、はい、ほなお疲れさま。あいあい。

麻子、電話を切る。

松岡 ちよつと待って。

麻子 何？

松岡 どういうこと？

麻子 え？

松岡 どういうこと？

麻子 せやから…。えっと、ちよつと説明すんに時間かかりそうやなあ。…まあ飲みながら聞いてくれる？

松岡 何やわからんけど飲むわ。…いや終電ないんちゃうん？

麻子 ええからええから。再会を祝して乾杯や。

松岡 何年も会ってなかったのが突然酔っぱらって来たかと思えば…。てか、脚本は？

麻子 大丈夫大丈夫。

松岡 …。

麻子 なあ、将己（シヨウコ）ちゃん。

松岡、ビールを吹き出す。

松岡 …下の名前で呼ばんとして。

麻子 大学の時、みんなに呼ばれてたやん。

松岡 嫌やったの。大体吉野は、その呼び方したことなかったやん。何で急に…。

麻子 遙ちゃんな。

松岡 うん。

麻子 今、機械少女におるねんて。

松岡 そうなん？

間。

松岡 そっか、まだあるんや。…そっか、タミイ工先輩って龍子のことか…。

妙な間。

麻子 松岡の本な、彼氏が凄い気に入ってるねん。

松岡 …彼氏？

麻子 そう。それで松岡に次の本頼めたらええなって話になって。

松岡 え、ああ、そう。…そうなんや。

麻子 ンフフ。

松岡 そっか。

松岡の顔を見ている麻子。

松岡 何？

麻子 ううん。

間。

松岡 あのさ、本、ちゃんと仕上げとくから、タクシー代なかったら出したるし、やっぱり今日は帰っ…。

麻子 …え？

松岡 彼ははおらん。

麻子 え？

松岡 明日、どっかぶらっと行かへん？

麻子 いや、脚本は？

松岡 …せやな。やっぱ帰るわ。

麻子 え？

松岡 駅まで歩いていたらまた終電間に合うし。

麻子 あ、うん…。

麻子が電池を入れた時計のアラームが鳴る。針は十二時丁度を指している。麻子、アラームを止める。

麻子 十二時にセットしてたから。

松岡 ああ…。

麻子 タイミングええな。

松岡 …。

麻子 (ボン) 魔法切れてもった。

松岡 え？

麻子 ううん。ごめんな急にきて。

松岡 いや。そんな。

麻子 ほな、また。本よろしくな。

松岡 うん。気、つけて。

麻子 おやすみ。

麻子、出て行く。松岡、寝転がって天井を見ている。静寂の中で響く時計の音。松岡、煙草の箱に手をやるが、空箱で。財布を持って外に行こうとする。そのとき雨に濡れた麻子が戻って来る。酷く緊張した顔で。

松岡 どうしてん、びちよびちよやん。忘れ物？

麻子、首を振る。松岡、タオルを麻子に渡す。

松岡 本の話？

麻子 そやないねん。

松岡 ほな…。

麻子 …そのために今日来たんとちゃうねん。

松岡 …？

麻子 ウチがここに来たんは、ずっと、言えんかったことを言うためやねん。

松岡 …うん。

麻子 松岡、ウチに告白したやん。

松岡 え？

麻子 …今でも覚えてるわ。ガクガクウて足震えて怖い顔して。しかもちよつと泣いてるし。舌は噛むし、お腹はぐるぐる鳴ってるし、言い終わってトイレに駆け込むし。もうぐだぐだやった。

松岡 もうええやん…。

麻子 ウチ、めっちゃ引いてた。めっちゃ。次の日、みんなにいろいろ言われたんちゃう？

松岡 …。

麻子 ウチが言いふらしたから。…あの時の松岡、ずっと忘れられへん。あれから何人にも告られたけどな、薄い薄い。

松岡 …したかったんはその話なん？

麻子 …。

松岡 もうええやん。めっちゃ引いてたんわかったよ。せやから俺が劇団おったらやりくいやるって思っただけ置いて、俺の方もよやく三日に一日くらいは思い出さへん日でもきはじめた。せやのに、何で風化させてくれへんね…。

麻子 …。

松岡 …。

麻子 …。

松岡 …。

麻子 …。

松岡 …。

麻子 …。

松岡 …。

麻子 …。

松岡 …。

麻子 …。

松岡 …。

麻子 …。

松岡 ……

麻子 何であの日、引いてもうたんやろ。

松岡 ……

麻子 思いが強いとあかんね。こんな台詞用意してたんとかやうのに。ずっと、ずっと考えたのに、頭の中真っ白や。アホや。

掌底で目尻を押さえる麻子。

松岡 俺のこと眼中にないって。

麻子 ……後になっていろんなこと知った。ウチが機械少女のやり方に反発した時も、松岡一人だけウチのこと支持してくれてたって。

学校側に活動停止って言われた時も、松岡が走り回って処分取り消してもらったって。『血まみれバボちゃん』の千秋楽でウチが衣裳に貸してたかんざし、無くしたって聞いて、みんな打ち上げに行ってるのに、松岡ひとり大学に残って朝までかかって探してくれてたんやろ？ ウチそんなこと知らなかった、次の日、無くしてなんかなくてってあっさり答えてもった。卒業してから聞いてん。あの日、一個下の男の子が松岡を打ち上げに呼ばんために、そんな嘘ついたって。呼んでたら、ウチと松岡が引っ付く思うたからって。

松岡 ……吉野、人気あったから…。

麻子 かんざしお婆ちゃんがくれた奴やってん。

松岡 うん。

麻子 千秋楽の夜は特別な時間やのに。…あの日も、今日みたいに凄く寒い日やったのに。さっきチケット見つけて来た時、松岡笑ってた。けど朝まで探して見つからんなんて、そんなん絶対しんどいやん。

松岡 俺が勝手に探しただけやし…。

麻子 何であんな緊張して告白してきたんかも龍子に聞いた。龍子と中学も一緒やってんな。中学の時、松岡、好きな子に告白して、シヨウコのくせにキモいって酷いフラれ方したって。それがあったのに、また自分から告白できるようになったんやなって。

麻子のぎゅっと握った手の中にはかんざし。

松岡 ……

麻子 今はわかるねん。あの日、松岡の気持ち。凄く怖いし、口から胃が出そうになってる。緊張せんように酒飲んでたのに、肝心な時に魔法切れてもうてるし。あのとキウチが取った行動を許せへんなら、それでもええけど、ウチは凄く後悔してるってことを言いたかった。

松岡 ……

麻子 もっぺん、ウチに告白してほしい。

俯く麻子。

松岡 ……時間がな。

麻子 時間？

松岡 止まったた。

麻子 時計？

松岡 じゃなくて。時間。俺の中の。麻子が今日来るまで。…俺、やっぱり。

麻子 やっぱり？ やっぱり何？

間。

松岡 えっと…。

麻子 ……

松岡 ふう…。

松岡、顔は平静を装うが足が震えている。

麻子 ……大丈夫。大丈夫やから。今度はちゃんと聞いているから。聞いているから。

麻子、じつと松岡を見ている。

松岡 ……あ、あきれらめ。

麻子 ……

松岡 噛んでもた…。

麻子 ええねんええねんええねん！

松岡 諦められへん。やっぱり好きやし…。

麻子 …うん。

松岡 …うん。

麻子 …うん。

松岡 …うん。

問。

麻子 …じゃあ、前の時は、松岡の気持ちろくに

考えずに答え返したけど、今回は真剣に聞

いた上で返事するから。

松岡 うん、ええ？

麻子 松岡がウチのこと思ってくれてて凄く嬉し

いんやんか。

松岡 …うん。

麻子 でもウチは、松岡の気持ちにはな。

松岡 …。

麻子 応える…。

問。松岡がしばらく麻子の言葉の続きを待っていたが。

松岡 …応える、何？

麻子 …応える、…よ。

松岡 …？ …応える？

麻子 …よ。

松岡 …その前の文に逆接入ってたけど。

麻子 ちょっと間違えた。

松岡 凄く紛らわしい。

麻子 自分でも思った。

松岡 …OKってこと？

麻子 …うん。

松岡 OKってこと？

麻子 うん。

問。

二人 ふう。

麻子 …って感じのハッピーエンドを書いてほしい

な。

松岡 え？

麻子 …どう？ 朝までには仕上がるやろ。

松岡 今から？

麻子 締切十二時やってんし。

松岡 はあ。

麻子 なんちゃって。

笑う麻子を見て大きく息を吐く松岡。

松岡 あっつ。凄い汗。

麻子 …その前に、夜食買いに行こっか。

松岡 うん。ラーメン食べに行く？ あ、ラーメ

ンあかんかってんな。

麻子 …めっちゃ食べるで。ていうか主食。

松岡 …大学ン時、毛嫌いしてたやん。

麻子 松岡がいつつも美味しそうに食べてたから

やん。

松岡 …。

ミラの歌詞が頭の中で流れる。

「君の中にはあるのかな 僕の色

何処か一カ所でもあるのかな 僕の色」

麻子 どうしたん？

松岡 ううん。

麻子 …近くに美味しいところある？

松岡 うん。ただ、ちょっとそこの大将が変な人

で…。

麻子 …女装してる？

松岡 …知ってるん？

麻子 …そこいこ。

麻子と松岡、部屋を出て行く。終。

